

3. 根岸外国人墓地の墓碑銘

磯子区 佐分利 保 雄

日本の墓石には、いきなり戒名が書かれており、序文はない。ところが、西洋の墓碑にはしばしば序文が刻まれている。

英語では、IN LOVING MEMORY OF：親愛なる記念にという書き出しが一番多い。全部大文字で書かれており、OF は行を変えて中央に書かれている。LOVING を略して IN MEMORY OF、TO THE MEMORY OF、TO THE SACRED MEMORY OF、IN AFFECTIONATED MEMORY OF、あるいは IN REMEMBRANCE OF など文面が多少変わったものもあるが、意味はほぼ同じである。

フランス語では En douce memoir de：優しい思い出に、ポルトガル語では Em saudosa memoria de と記され、英語の場合とほぼ同じ意味である。

ところが、イタリア人の墓碑には Quiriposa、フランス人では Ici repose、オランダ人では Hier rust、ドイツ人では Hier ruht：ここに眠る、ここに憩うと書かれており、英語のように MEMORY 記念にという語は見られない。

ドイツ人では序文が長く、Hier ruht in Gott、神と共に休むとか Hier ruht fern von der Heimat：故郷を遠く離れてここに休むとあり。また、Hier ruht unsere innigst beliebte Tochter und Schwester・・・我々の心から愛した娘であり、姉妹である・・・がここに休む。このように死者と生存者の属柄が丁寧に記されているのが見られる。

なお墓碑の先頭あるいは末尾に、R. I. P.と刻まれているのは、Rest inpeace：安らかにお休み下さいと言う意味で、ラテン語の Requiescat in pace に由来している。したがって、英語以外の墓碑にも R. I. P.が刻まれている。